

2. 地方創生(しごとづくり・ひとづくり)部門

- ①宇陀市 宇陀松山城破城400年事業・町並み保存整備事業
- ②広陵町 介護予防リーダー養成事業
- ③黒滝村 吉野杉に新たな木材圧縮技術を付加した家具等の開発

宇陀松山城破城400年事業・町並み保存整備事業 (宇陀市) ①

担当部署 文化財課

【①取組概要】

宇陀松山城及び周辺地区の伝統的建造物を文化財として保存すると共に、観光資源として活用するため、地域住民の意識を醸成し、市と地域住民が一体となって様々な取組を実施

- 文化財ボランティアの養成講座(市)
- 宇陀松山城や周辺地区についての講演会(市)
- 住民による松山地区を舞台にしたイベントの企画・実施(地元)
- 空き家の活用のための空き家解消活動(地元)

【②工夫した点】

- 市が外観変更の許可や補助制度、道路美装化等の公共空間整備により景観の向上に取り組み、住民が地域の魅力発信を行うという枠組みで取組を実施
- 空き家解消活動では地元団体が主体的に活動を行い、行政との連携が奏功

【③取組の効果(目標)】

- 「奈良町家の芸術祭はならあと」への参加やまちなかバルウォークの実施など住民主体のイベント実施
- 町並みに配慮した建築物の修理：41件、修景：18件、空き家への入居・開業：14件(H19~H26)
- メディアへの掲載数など、地域の魅力発信が着実に増加
- 宇陀松山城跡ライトアップを実施

【④取組の効果(目標)を踏まえた今後の展開】

- 引き続きの文化財事業を通し、行政と住民の共通した意識を醸成し、文化財の保存・利活用を推進
- 地域の魅力を活かして、移住・定住者を獲得
- 市が取り組む薬草事業に空き家を利用するなど、町家の有効な利活用を模索



地域の住民が集まって自分たちの地域について話し合うワークショップ



文化財ボランティア養成講座の実施風景



地元ゆかりの作家が町家で作品展示を行った「奈良町家の芸術祭はならあと宇陀松山」

介護予防リーダー養成事業 (広陵町)

②

担当部署 福祉課

【①取組概要】

有志の住民を対象にした講座を開き、町が認定する介護予防リーダーを養成することで、住民主体の介護予防を推進し、自助・共助の仕組みを創出

- 畿央大学と連携し介護予防リーダー養成講座
- 介護予防リーダーによる地域での出前講座や運動教室
- 介護予防リーダーを対象としたアンケート調査
- 介護予防リーダー向けのフォローアップ講座

【②工夫した点】

- 応募者を増やすため、広報誌だけでなく町内の各種施設への掲示や、県、社会福祉協議会等の協力を得て関係者への直接広報等も実施
- 介護予防リーダーとしての団体意識づくりのため、チーム名(KEEP)を考えたり、チームユニフォームを作ったりしたほか、交流会などを通して意思統一を図った
- 講座修了後すぐに介護予防リーダーとしての実践の場を設けると共に、フォローアップ講座で活動内容の向上を図っている



お揃いのユニフォームで養成講座に望む受講者のみなさん

【③取組の効果(目標)】

- 37名の受講者があり、介護予防リーダーとして修了出席率は96.8%
- 介護予防リーダーによる運動教室は月4~6回実施
その他にも出前講座や住民向け教室等を定期的実施
- アンケート調査では、介護予防リーダーの自己効力感や使命感、自身の健康意識の向上を確認

【④取組の効果(目標)を踏まえた今後の展開】

- 介護予防リーダーを継続的に養成するとともに、新たな養成を既存のリーダーが担う、循環体制を構築
- 介護予防リーダーが中心となり、住民が地域で主体的に健康づくり活動を行う仕組みづくりを推進



講座の全日程を終えた受講生に修了証書を授与



実際に地域で健康づくり活動を行う介護予防リーダー

吉野杉に新たな木材圧縮技術を付加した家具等の開発

(黒滝村)

③

担当部署 林業建設課

【①取組概要】

- 村の主要産業である林業の再興を目指し、需要が低迷する吉野杉の販路を拡大するため、民間の家具メーカーと連携して木材圧縮技術を研究し、吉野杉産の家具や小物を製品化
- 家具メーカーの飛騨産業(株)と連携し、既存の技術を上向させる形で木材圧縮技術を研究開発
 - 研究開発した木材圧縮技術により、柔らかいという特徴を持つ杉材の硬度を高め吉野杉製の家具や小物を製作
 - 建築材としての用途が主であった吉野杉の販路を拡大

【②工夫した点】

- 行政ではあまり多くない、地域外(県外)の民間企業と連携した事業を展開することで村の産業に新たな可能性を生むことができた
- 少ない財源の中で規模の大きな事業を実施するため、補助金を積極的に活用し、村財政としての費用対効果を向上

【③取組の効果(目標)】

- 吉野杉を家具用材として活用するための新技術開発に成功
- 新技術を活用して吉野杉産の家具を製品化
- 東京で吉野杉産家具の展示会を実施し、首都圏で吉野杉のブランド力を発信
- 吉野杉の需要拡大への期から、村森林組合において新規採用職員5名という雇用を新たに創出

【④取組の効果(目標)を踏まえた今後の展開】

- 新たに開拓した家具用材としての販路を活用して、吉野杉の需要を拡大
- 家具用材としての広報を通じて、吉野杉のブランド力を改めて発信し、既存の建築用材としての需要拡大にも寄与
- 国産材としての吉野杉をアピールし、公共施設等での消費拡大を推進



新技術を活用し硬さと美しい柾目を両立した吉野杉製のテーブルとイス



新技術により硬さとなめらかな曲線を両立した吉野杉製の皿



東京の松屋銀座で開催された試作品の展示会